

觀 測 部 月 報

Monthly Report, Observing Section, O.A. A.

★

東 亞 天 文 協 會

★觀測部總報 (2) 部長 木邊成麿 (S. Kibé, Director)

觀測部員の略記號第二回分發表

其後新加入者が多數出來たので第二回目の發表をする。既に第一回目にて於て184名定めたから、今回の分は可なり適當な組合せの選定に苦心した。

Ag 足利 誠公(大阪)	Ik 市川 眞(滋賀縣)	Oq 大久保 正(横濱)
Cc 小山千万樹(東京)	Il 岩城 馨(静岡縣)	Qh 高津 得一(茨城縣)
Cg 上垣内 實(廣島縣)	Ir 石上 五郎(静岡縣)	Qr 北村 英彦(大阪)
Cj 梶原 明仁(福岡)	Jn 柳部 重美(神戸)	Qs 笠井 泰雄(京都)
Cm 香村 良男(大阪)	Jo 米井 信夫(東京)	Qt 加藤 祐成(名古屋)
Ct 小林 工(東京)	Ld 頼 武 揚(臺北)	Qy 金谷 豊(大阪)
Cu 小山 丑松(新潟縣)	Mc 持田 惠三(東京)	Ra 中村十三男(兵庫縣)
Fi 福井 茂一(滿洲國)	Me 前橋榮太郎(大阪)	Sc 鈴木 共富(愛知縣)
Fo 藤井 慶夫(大阪)	Mf 前田 眞一(奈良縣)	Sf 祖父江義雄(岐阜)
Fr 藤森 智城(兵庫縣)	Mj 丸山 豊樹(堺)	Sv 菅野 力(大阪府)
Ft 舟楫宗一郎(京都)	MI 森田 正孝(東京)	Sw 鈴木 茂男(東京)
Fz 藤井 文三(長野)	Mp 松隈 孝祐(福岡縣)	Sx 榎 松太郎(京都)
Gs 吳 祖 澤(臺北州)	Mv 森 隆(四日市)	Td 瀧田 正俊(銚子)
Gt 後藤重三郎(名古屋)	Mx 松下 淑(東京)	Tf 陶山 登(京都)
Hb 日比 宏(横濱)	Nb 中村 延夫(市川)	Tj 巴山 隆(京都)
Hc 比企 龍夫(西宮)	Nd 西川 淳(神戸)	Tl 田中 六也(豊中)
Hj 原 澄治(倉敷)	Ne 中野 敏男(富山)	Tz 谷 司(廣島)
Hx 長谷川一郎(神戸)	Nf 西本柳太郎(松江)	Ue 上野竹次郎(秋田縣)
Ia 稻毛 忠禎(横濱)	NI 野口 祐治(大阪)	Un 畝川 哲郎(吳)
Ib 石橋 正(東京)	Np 中島 盛行(大阪)	Um 植村 完(名古屋)
Ih 石黒 彦治(東京)	Nv 野村 修(島根縣)	Wd 脇田 清嗣(大阪)
Ij 乾 成美(京都)	Nx 西本十三男(吳)	Wh 綿貫 博通(神戸)

以上66名 前回通計250名

(前回148名とあるは184名の誤植に付き訂正す)

★機械課報告 INSTRUMENTS. 課長 木邊成麿 (S. Kibé, President)

接眼鏡(アイピリス)共同購入計畫

最近、望遠鏡部分品の照會を屢々受けるが、御承知の如く、現下の時局に於ては、其の入手は困難である。但し、或る程度同種のものが集つて數が揃へば、入手の可能性がある。故に最初の試みとして、接眼鏡の共同購入を計畫する。希望者は本會事務室又は當器械課宛（滋賀縣野洲郡中里村木部21、木邊成磨氣付）往復葉書（4錢）で申込まれたい。種類は便宜上下の四種として置く。

甲、	6mm	ハイゲンス	} ミツテンツワイ式、又は普通の型式か、未定
乙、	12.5mm	ハイゲンス	
丙、	25mm	ハイゲンス	
丁、	25mm	ケルナ	

價格、期日等は不明であるが、ハイゲンスは15圓～10圓、ケルナは25圓位と思ふ。又、個數は最低全體で百個位希望が集らないと注文出来ないから、場合によつては目的達成が出来ない事もある。たゞ無限に待つて居ても限りがないから、本年中に目的に達しない場合には一應計畫を取止める。従つて、豫約金は不要である。

★太陽課報告 (三月) SUN 幹事 大石辰次 (T. Oisi, Secretary)

追加報告	二月分	觀測者	口径	倍率	方法	日數	平均
		笠井泰雄	45	64	投影	16	38 (新觀測者)
		木邊成磨	75	60	直視	8	49

黑點緯度觀測追報	觀測者	北半球平均	群數	南半球平均	群數
	沓掛 (1月)	11°	4	10°	2
	(2月)	7°	9	10°	5
	蔡 (1月)	10°	4	10°	7
	(2月)	9°	7	12°	2

黑點概況 三月分は課旬報に細密に報ぜられたが綜合すれば下旬中央が最高であつて相對數100以上であつた。又上旬末には無黑點日が續いて器械能力とシーイングの良否の爲可成の差を表して居るのは別の興味がある。7日西没の大群は22日東現したが多少縮少して居た。23日中央通過の列狀の大群は22日最も壯大を極め此の北側には活潑な一群があつた。

觀測狀況 二月22日を以て木邊部長は滿15個年を経過せられ、群番號は2840まで數へられた。此は吾が太陽課に於ては誠に特筆大書すべき欣快事であつて、故三澤氏の努力に優るも劣らざる偉業である。同氏より綜合的報告を期待して止みません。

三月は天候も良く17名の總員を以て、缺測日は2日の一日のみであつた。今月からは毎日の觀測個數をも並記する。多少の参考ともなれば幸である。新觀測者も續いて出現し、陣營は強固であつて、甚だ意を強うする。

太陽黑點相對數報告 (1942年三月) Sun-spot Relative Nos., March, 1942.

觀測者 Obs. (觀測地)	坂上 務 Su (鹿兒島市)	津留 繁雄 Tr (熊本市)	明星 觀測班 (明星商業) Me (大阪市)	前橋 榮太郎 Tu (大阪市)	竹内 潤 No (大阪市)	西尾 利夫 Kb (滋賀縣)	木邊 成磨 Kd (石川縣)	金田 伊三吉 II (靜岡縣)	岩城 馨 Oi (靜岡縣)	大石 辰次 Kk (長野縣)	脊掛 七二 Ti (東京市)	高杉 重春 Tm (東京市)	富田 弘一郎 Mx (東京市)	松下 淑 T.N. (東京市)	西卷 辰雄 Yy (東京市)	山田 勇次 Hz (東京市)	保積 善太郎 Hz (東京市)	觀測數 (二七名)
口徑 mm	42	122	180	27	32	105	75	55	30	55	102	30	40	58	75	75	80	
倍率 ×	64	48	75	60	50	75	60	64	50	64	75	64	32	64	46	80	64	
方法	P	P	D	D	D	P	D	DP	D	D	DP	DP	DP	D	P	D	D	
1	C	C	81	72		63	81	76	M	72	106	56	M	C	C	69	76	10
2	C	R	R	R		R	R	R	R	C	R	R	M	R	C	R	R	0
3	M	36	40	38	48	42	M	R	C	C	C	C	M	R	C	C	C	5
4	M	37	34	32	39	31	31	33	C	27	50	26	38	35	74	30	35	15
5	R	R	C	R	52	R	R	R	R	C	R	C	M	R	C	C	R	1
6	R	53	C	C		M	22	R	II	14	C	II	17	13	35	23	28	10
7	12	24	0	11	23	0	11	R	C	C	C	C	M	M	C	C	R	7
8	11	11	0	0		0	0	0	0	12	11	0	M	0	12	0	0	15
9	C	R	0	0		M	C	0	C	0	C	0	M	C	C	0	C	5
10	C	0	0	0		0	0	0	0	R	C	0	0	0	C	0	0	12
11	M	11	0	0	22	M	11	0	0	0	11	0	0	0	13	0	0	15
12	C	22	0	0	12	0	23	0	C	22	11	0	0	22	38	11	11	15
13	M	11	C	0		11	M	0	0	22	C	11	0	11	27	22	11	12
14	C	R	R	0		R	R	R	R	29	C	11	R	C	14	C	32	4
15	C	C	R	C		M	M	R	C	29	C	R	R	R	R	R	R	1
16	C	42	29	11		29	31	29	C	R	C	26	M	28	R	27	31	10
17	M	30	29	11		M	27	26	11	30	M	M	11	R	44	M	28	10
18	44	42	22	23		M	44	41	37	37	M	37	39	41	89	36	45	14
19	52	56	41	24		M	67	52	C	55	M	50	M	M	97	55	55	11
20	M	61	57	52		M	92	65	M	67	M	54	M	M	120	49	60	10
21	M	66	61	69		M	99	67	M	73	M	47	45	M	C	51	82	10
22	M	R	79	91		74	128	66	119	102	M	72	83	M	127	68	84	12
23	M	106	84	83		75	135	64	C	90	M	62	89	M	143	M	115	11
24	C	C	84	86	104	M	114	65	R	85	M	C	M	M	C	C	C	6
25	72	89	83	99	92	80	137	65	C	68	M	63	M	M	150	M	83	12
26	65	C	83	104		66	M	60	C	85	M	47	M	M	148	M	77	9
27	64	71	53	48		M	55	S	50	67	M	36	M	M	110	M	50	10
28	M	37	41	M		32	37	38	38	29	M	24	56	M	72	M	33	11
29	R	R	R	R		R	R	32	R	C	M	R	R	M	C	M	C	1
30	42	32	48	30		M	32	30	C	28	M	26	64	M	79	M	30	11
31	53	48	48	45		44	M	45	23	44	M	36	68	M	82	M	41	12
日數 Days	9	21	24	24	8	15	21	23	11	24	5	23	14	9	19	14	23	
平均 Mean	46	42	42	39	49	36	56	37	26	45	38	30	36	17	78	31	44	

雑報 報告用紙詳細欄の記入法が一致しないが、本課の標準は圖説天文講座第2巻136頁所載の例に依つて戴きたい。又、時間的に恵まれて居る方々は日毎のスケッチを實行される様に希望します。之は観測の精度を増し、後日のため意外に貴重な記録ともなります。積極的前進の法として、課員は現在までの各自の観測研究、方法、意見を個人的にどしどし發表して、一助とされるやう望みます。

★流星課 METEORS (126) 課長 小椋孝二郎 (K. Komaki, President)

六月は流星の少い月である。出現を豫想される流星群は次の通りである。

期 間	極大日	輻射點		附近の星	性 狀	備 考
		α	δ			
六月11日—13日		311°	+62°	セ フ エ η		
下 旬		24	+43	アンドロメダの	速, 痕	
月 末	28日頃	213	+53	大 く ま η	緩	} キンネケ, P=6年
月 末		228	+58	龍	緩	
月 末		246	+64			

この外、五月末からつゞく蝸座の火球を含む流星群が見られる。

× × × × ×

關東班では、四月の乙女座及琴座流星群を目標として、協同観測が計畫されてゐる。立派な結果の得られることを期待する。

四月9日18時45分、東京市の中川登代雄氏は、金星に數倍する大火球を西天で見られた。同火球を見られた方の報告を希望する。

× × × × ×

四月の琴座流星群について、栗原正雄氏 (Ku) 及筆者 (Ko) の観測したる結果は次表の如きものであつた。

日附	観測者	開 始	終 了	時間數	流星數	琴 座 群	平均光度	一時間 平 均	F
19	Ku	2 ⁿ 0 ^m	4 ⁿ 30 ^m	150	8	0	—	—	—
20	Ku	2 0	3 10	70	5	0	—	—	—
22	Ko	1 40	3 0	80	16	4+2?	1.1	4.5	0.8
23	Ko	3 30	4 10	40	13	5+1?	2.7	9.0	0.8
24	Ko	2 45	3 45	60	15	2+1?	2.3	3.0	1.0
25	Ko	2 40	3 40	60	10	1	3.5	1.9	1.0

極大は流星數から見て、23日朝にあつた様であるが、平均光度を考慮に入れると、眞の極大は22日から23日に至る間にあつたことが首肯される。一時間の平均數は23日朝で9個、修正値11.2個であつた。琴座流星群の出現は近年寡少であることは略々間違いない事實である。今年、光度の大なるものが若干あつた事は特記すべきことである。(四月27日)